

SSKW

ダルク女性ハウス

ニュースレター



イラスト みさき

■お米がない■

はるえ

お米ください。お米が高いから、買いにくい。週一お米を炊いてみんなが持って帰っています。すごく助かります。

スマホでの情報提供、支援。世界中方向は同じだった。

オーストラリアのメルボルンで開かれた、国際ホームリダクション学会に参加してきました、すごく元気になりました。逆風の中でも薬物使用で困っている人たちの横に頑張っている支援者がいました。

2020年のコロナ禍のなかではおびえました。喘息がすごく重いので、とにかく罹患しないことを周りからきつく指導されていました。ハウスの人たちと引きこもっている間に、自分の周りから、困った人たちの声が聞こえなくなっていった気持ちになりました。

訪問は当然へります。しかしオンラインの女性の自助グループのなかでは、地方のメンバーの困窮さが増え、古藤吾郎さんのツイッターなど、SNSの調査では市販薬、処方薬のODが写真入りで上げられていて、驚きました。それがリストカットの写真に変わるのはいったいというまででした。リストカットは貧困の中で困っている

子どもたちを救うもの、誰にも知られず、お金もかからず、子どもにとって経済的に追い込まれているあかしです。

2002年4月23日 第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）

2023年7月9日発行 SSKW増刊通巻第5993号

かつてリスカを止めようとしている施設の臨床心理のトルコ人の若いスタッフに相談されました。15年くらい前でした。シンナーとリスカをなんとか止めたい、イランとトルコの国境の貧困地域で、稼いでもご飯を買わずに、シンナーを吸い、リスカ。なんでリスカなの？一番安いから彼女に説明されたとき、2000年代の日本を思い出して、失礼な質問をしたなと、ごめん、私、知ってます。困っていたメンバーたち。また、日本にリスカの時代が戻るとは思いませんでした。

そして「相談」が社会に届かないこと。「相談」という言葉自体が現実の困りごとを沢山抱えた人たちには違和感しかないこともわかってきました。

相談なんて、そこまでいかないし、相談したことがない。

何に困っているのか……。私が1980年代に味わった、アルコール飲酒、処方薬、市販薬の多量に使用する状態を知られていなかった頃を思い出しました、世界に一人しかいないとっていました。だから誰にも聞けませんでした。

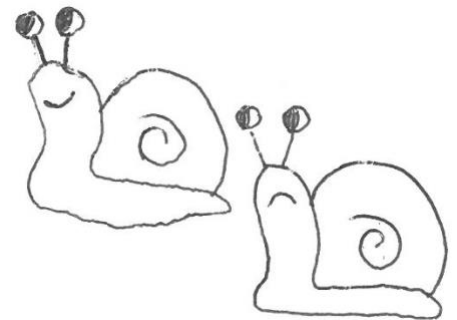
だけど、一番困るのは、家族です。両親、兄弟、子どもたち、特に女性ハウスは子どもの支援を長期的に関わっているので、その子どもたちから、聞いてきた。家族の依存症を知り合いや配偶者に話せない、理解してもらえないツラさ、苦勞は半端ではありません。

自分が今まで依存症のスティグマを少しでも減らしていく、各国の取り組みをしてこれなかったことは、ダルクを作ってきたことの後悔としてありました。

メルボルンでは各国の支援者や当事者が同じように、直接来る人が減った、みんな引きこもっていること、見えにくくなっていること、コミュニケーションの方法を変える必要があること、ラインやツイッターの相談が中心になっていくのは世界中が同じ、環境問題など若い世代はスマホで活動しています。スマホがないと仕事ができないので、みんな持っています

日本だと仕事の連絡がラインで来ることが多いとメンバーの子どもたちはいます。ラインに加入していないと、送られてくる仕事のスケジュールが受けられない。そうかあ。

何もないことにされちゃうのはとても嫌だ、もともと隠れたいのに。。



☆当事者を中心にするハームリダクション東京のとりくみ☆

古藤吾郎

こんにちは。古藤吾郎と申します。2021年6月にハームリダクション東京という団体を陽江さんと立ち上げ、活動しています。とても小さな団体なのですが、精神保健の援助職で、薬物の当事者だったり、女性、LGBTQ、虐待・暴力のサバイバーなどのメンバーで構成されています。主な活動はクスリのこと、なんでも安心して話せる「OK チャット」です。週に4日、午後2時から午後6時までチャットをオープンしています。ツイッター・LINE・テレグラムのどれかで、OD、大麻、Women、Teens、LGBTQなどのチャンネルもあります。

前年度は約200人の当事者（いま何かしらクスリを使うことがある人）と2,000件以上のチャットをしま

した（現在集計中です）。覚せい剤や大麻もだし、市販薬や処方薬を OD（過剰服薬）する人たちともたくさんチャットをしてきました。なかでも OD する若い人（未成年も）、女性（年齢に関係なく）に本当にたくさん出

2002年4月23日 第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）

2023年7月9日発行 SSKW増刊通巻第5993号

会います。何回でも訪ねてもらっていいので、伴走している、オンライン空間のシェルターになってる、そんな感じです。

チャットではやめたくてもやめられないという話もよくあります。だからといってその人を依存症の回復支援につなげればいい、というシンプルな話じゃないことを教えてもらいます。やめたくてもやめられない＝依存症と捉えている、ではないし、やめたくてもやめられない＝回復支援プログラムにいま行きたい、でもないから…。やめたくてもやめられないなかで、じつはいろんな工夫したりしてサバイブしているって感じることはばかりです。人間関係や学校や仕事に関するグチャ雑談もよくします。どんなふうにチャットするか、陽江さんをはじめチームのメンバーでいつも話し合っています。そして当事者（薬物の使用がある人）を中心に考えてようというハームリダクションの理念を大切にしています（ハーム＝害、ダメージ、リダクション＝減らす）。

4月には、陽江さんと2人でオーストラリアのメルボルンで開催された国際ハームリダクション学会に参加してきました。そこでは薬物使用がある当事者が中心になります。世界中から当事者と、当事者と連帯する専門家や援助職たちが集まってハームリダクション東京の活動が、クリエイティブな取り組みとして口頭演題に採択され、発表してきました。なんと閉会セレモニーでも取り上げてもらいました。いろんな国の人たちから励ましを受けて、とても嬉しかったです。

学会では、女性の薬物使用当事者たちの活動もとても活発で、その活動をしている人たちと出会えるのがいつも楽しみです。今回は陽江さんが、ハウスで製作された着物生地グッズをプレゼントとして渡すこともできて、たくさんの女性の当事者たちに喜んでもらえました。陽江さんと会うと、それぞれの社会で荒波のなか生き抜いている、そのことが言語を超えて分かり合える、お互いを讃えあう、そんな場面が何度もありました。

この学会参加報告を NYAN のウェブサイトに掲載しましたので、もしよければぜひご覧くださいませ。

https://nyan-jp.net/report_hr23/

■アディクションから離れて、半年が経ちました■

みく

ダルクに繋がると同時に入寮して、半年が経ちました。全く実感が湧いていません。気が付くともう6月を過ぎていて、時間の早さに驚きます。

入寮当時、色々な仲間からありったけの思いやりと温かさを貰ったことを覚えています。沢山話しかけてくれて、助けて頂きました。こうして半年が迎えられるのも、仲間のおかげです。いつもありがとうございます。

私は中学2年生でとあるゲームと出会いました。あまりの魅力にのめり込み、そのゲームはあっという間に自分の生活の全てとなりました。常に孤独感と寂しさで虚しかった私の心に、今までに感じたことのないよう

な楽しさと、とても強い充実感が湧いたのです。ここに繋がるまでの私の生活は、ほぼ10割方ゲームだったといっても過言ではありません。

ゲームは、そして、初めて触れたときから深く愛してやまなかったキャラクター達は、私の思春期時代の心の処方箋であり、唯一の救いでした。

“ゲームから離れる”ということは、死刑宣告に等しかったです。

そんな私が、今では当たり前のようにこの環境を受け入れていて、ゲーム



なしの生活に心地よさすら感じている。こんな日が訪れるとは、当時の自分ではとても想像できなかったことです。

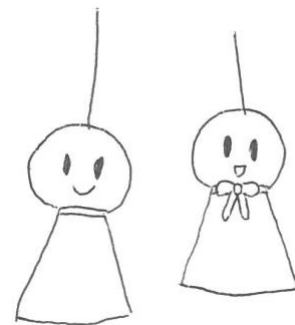
2002年4月23日 第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）

2023年7月9日発行 SSKW増刊通巻第5993号

ゲームから離れてみて思うのは、やっぱり生きるのは凄く大変で、苦しいということ。正直、何もかもが怠いです。

ですが、ゲームを辞められて、ほっとしている自分がいます。「ああ、やっと解放された〜！」と。架空の世界で万能な自分を作り上げ、そこで完結していた虚しい生き方から抜け出せたと思います。

現在の私は、高校卒業のためにレポートとスクーリングに取り組んでいます。先のことは分からないので、まずは高卒の取得を優先します。そして、就労をして自立したいです。それからゆっくり勉強を始めて、自分の夢である通信制大学に入学できたら、嬉しいです。



★B型日誌★ 『本屋はじめました〜』

本屋ライター(BOOKSHOP LOVER)和氣正幸さんが小田急線祖師谷大蔵で始められた新刊書店 + 棚貸し本屋さんにリーブル工房が出店しました。

文庫、新書に加え岩波少年文庫やコミックスにも使える B6 サイズのブックカバーや各種布製品を取り扱っています。また、「その後の不自由」をはじめとする一般書店では手に入りにくいダルク女性ハウスの本も販売しています。

本屋を旅する BOOKSHOP TRAVELLER

住所:〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 1 丁目 9-14(2 階建て 5 軒長屋の一番右の店)

営業時間 12:00-19:00(定休:火、水)

たくさんの「献金・献品」ありがとうございました！

♡大切にに使わせていただきます♡

(2023. 4~2023. 6)

スズキジュンコ 早苗麻子 臼井美智子 古谷高子 岡田正彦 ワタナベアイ 山田恵美 森裕子
栗原節子 (株)コモン計画研究所 相澤 ひがメンタルクリニック 丸山陽子 秀島かおり 舟山智子
都立精神保健センター鮎田栄治 上里智子 ミナミヤスケ ウダガワヨシエ 上田祐子 松村素子
角田崇子 田中裕子 波多野律子 ヨネザワヒロシ 宗形博子 上岡志保 黒川奈菜子 石原雅子
佐々木愛沙 五十公野けい 大谷典子 山下千明 山下直美 鮎田栄治 由利雅子 若草プロジェ
クト 社会貢献支援財団 匿名希望 2 名 (敬省略 順不同)

★今後ともよろしくお願い致します。(^^)♡

NPO 法人ダルク女性ハウス賛助会員募集

- 年会費一口 2000 円 (ニューズレター購読料を含む) 頒価 1 部 100 円
- 郵便振替口座 00140-2-591609
- 他金融機関からの振込用口座番号 店番 019 店 (ゼロイチキュー店) 当座 0591609

発行人: 157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

編集人：114-0014 東京都北区田端 6-3-18-301 特定非営利活動法人

ダルク女性ハウス [URL:http://womensdarc.org/](http://womensdarc.org/)